

(別添2)

No.	12
策定年月	令和4年6月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画 庄内町産地 (作成主体:庄内町)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

庄内町は、全耕地面積に対する水田の割合が9割以上を占める水田地帯である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、農業所得を確保するには、非主食用米及び園芸作物等の生産拡大を図るとともに、食料自給率の向上に向け、大豆の生産を拡大する必要がある。

大豆の生産性向上にあたっては、担い手への集積が進む状況を踏まえ、作業の効率化を図るため団地化を推進するとともに、生産性の高い大豆産地づくりを推進していく。

また、排水対策や土壌改良を進め、単収の増加と安定した収量の確保を実現する。

現在、庄内町においては、水田フル活用ビジョンにより大豆の作業の効率化や団地化の推進の取組みを行っているが、本計画において、大豆の生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

大豆については、「エンレイ」「里のほほえみ」「リュウホウ」を中心に生産され、豆腐や納豆原料向けに全国に販売されている。また、一部ではきな粉等に使用される「青大豆」の生産もされている。作期分散を図ってはいるが、地域によっては刈取時期が集中し、適期刈取りが難しく、収量の低下に繋がり、需要に応えられる収量に届いていないという課題がある。

(2) 生産における現状と課題

近年、大豆の作付面積は減少傾向で推移している。単収については長期的には増加傾向となっているが、ゲリラ豪雨や長雨などにより年次差が大きくなっている。
単収が低下する原因として、連作圃場への作付けと排水不良が考えられ、収量を向上させるためには大豆と水稲のローテーションによる栽培や排水対策の実施が必要となる。
また、平均単収の大幅な増加のためには、適切な肥培管理や雑草対策、センチュウ対策の実施を徹底することが必要となる。
さらに、近年は、農地の集約が進み、1農家あたりの経営面積が拡大しており、作業効率を図るために団地化等の推進が必要だが、団地化率も減少傾向となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦										
大麦										
作物計		(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
大豆	エンレイほか	(473) 474	(445) 445	(400) 400	(155) 155	(110) 110	(153) 153	(733) 735	(489) 490	(612) 612
作物計		(473) 474	(445) 445	(400) 400	(155) 155	(110) 110	(153) 153	(733) 735	(489) 490	(612) 612

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦								
作物計								

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	エンレイほか	294	62.2%	272	61.1%	239	59.8%	
作物計		294	62.2%	272	61.1%	239	59.8%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

当地域においては、ほ場1枚の面積が30a未満が大半を占め、産地交付金の団地加算の要件を1ha以上としているため、団地の基準は1haとして団地化率を算出する。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。